

きらめき

プラス

Vol.52 弥生

幸せを見出す
人生のチャレンジ
夢中の人

田口立基

一柳良雄

新潟市在住の女性(48歳)からの質問です。

質問

母(69歳)が脳梗塞で救急搬送され先日手術の運びとなりました。手術は無事成功しましたが、担当医師からは長期入院が必要と言われています。

母の病気のことを特養に入っている祖母(91歳、認知症あり)に何と聞いて話そうかと考えていたのですが、介護経験のある友人から「余計な不安や心配を与えるのであればあちゃんにはおかあさんの病気のことは伝えない方がいいよ」と言われました。

ただ12年ほど前に祖母を初めてショートステイに預けたときに、祖母が「もう捨てられたんだと思った」と言って泣いていたという話を母から聞いていましたし、いつも顔を出していた母の顔が急に見えなくなったら祖母はどう思うのか。

祖母の気持ちを考えるたびにどうすることが一番良いことなのか大変迷っています。

認知の度合いや個人の性格など、一概に

在宅医療は健幸医療

長尾 和宏

医療法人社団裕和会・理事長
長尾クリニック・院長



答えの出せることではないかと思いますが、ぜひ先生のご意見を伺いたく、よろしくお願い申し上げます。

お答えします

お母さんが脳梗塞に倒られたとのこと。おそらく心房細動に伴う脳塞栓症で、超急性期に行われる血栓溶解療法が奏功したのではないかと想像します。69歳でそれに至る背景には相当なストレスがあり無理をされたのではないのでしょうか。心原性脳塞栓症は一般に悪性脳梗塞とも呼ばれ予後が厳しい病態です。しかし無事に手術(カテーテル手術?)が成功されたとのことでしたから、とりあえずは最悪の事態を免れたのでしょうか。以上の視点からはまだ良かったのではないかと思えました。しかし「長期入院が必要」と言われたとのこと。おそらくリハビリ目的なのでしょうが、脳梗塞の急性期リハビリには様々なやり方があるので、是非とも積極的なリハビリの恩恵に預かることをお祈りしています。

さて、そんなお母上の病状を祖母に伝え

バッドニュースは伝えないことも心配させないための嘘をつくことも必要

るかどうか、というご質問ですが、とても難しい問いだと思います。以下、あくまで私自身の価値観として書かせて頂きます。

バッドニュースは伝えないことも

そのようなケースの場合、私は事実を積極的に伝えることはあまりお勧めしていません。なぜなら、祖母のショックが大きいです。「じゃあ見舞いに行く」とか「どんな病状なのか」と質問攻めにあったり、穏やかな日々が阻害される可能性があります。ただ認知症があるとのことですから、ぐに忘れる可能性もあります。しかしどうでもよいことは記憶できなくても、自分にとって大切な情報はちゃんと覚えている場合があります。

もし祖母のほうから母親のことを聞いてきた場合にどう答えるかです。「仕事が忙し

い」とか「旅行に行っている」とかその場しのぎの嘘をつくのも、アリだと思います。認知症のためにすぐに忘れてしまい何度も同じ質問をする場合もありますが、何度でも嘘をつけばいいだけです。要はわざわざこちらからバッドニュースを伝えることはせずに、聞かれたら心配させないための嘘をつくのです。あくまで祖母のためです。配偶者や子どもが亡くなることもありますが、その時も同じです。ショックを与えないために黙っている場合が多くあります。「知らぬが仏」ではないですが、バッドニュースはそのままの形では伝えないほうがいい場合を多く経験してきました。

永遠の嘘をついてくれ

2016年11月23日にエンドオフライクア協会主催の講演会が都内で開催されました。私はがんの余命告知について話しまし

た。本人から余命を聞かれた時にどう答えるか。私は「ちょっと厳しいなあ」と思っても本人には「よく分からない」と答えることが多いように思います。もちろんケースバイケースですが、家族には正直な印象を話しても、本人には嘘をつきとおすこともあります。あまり意識せずにそうしてきたような気がします。

もしかしたら現在の医学教育では、「情報をそのまま伝えることが医師の役割」と習うのでしょうか。病院の医師は結構ハッキリと本人に余命告知をしているようです。なかには「あなたの余命は3年です」と宣告した研修医もいました。しかしはじめに会ったばかりの本人に「あなたの余命は〇ヶ月です」なんて話すことは町医者私の日常ではまずありません。もし本人からしつこく聞かれたら、「一ヶ月位かなあ」と思っても「いやー、10年は無理かもね」とはぐらかします。余命〇ヶ月と本人に明確に言わない理由はいくつかあります。一つは画期的な治療法の開発で余命2ヶ月と宣告されたステージIVの肺がんの患者さんが8年に延長したケースを経験したからです。イレ

目の前のお年寄りが
元気になるのが嬉しいんです

音楽体操にまい進中



音楽体操講師
中村 嘉奈子



一人ひとりと丁寧に向き合う

音楽体操で中村先生がモットーとしていることは、一人ひとりと丁寧に向き合うこと。音楽体操開始の30分ほど前から、二人と来られる利用者の方に、「こんにちは。お元気でしたか」と膝を折り、目線を合わせて声をかける。程度の差こそあれ、参加者のほとんどが認知症だとのことであるが、先生が声をかけると表情に気が蘇るが、満面の笑顔で「待っていたよ。何ヶ月ぶり？」などと応答する。そういう顔を見て、先生は、月1回の訪問ではあるが、音楽体操が参加者の希望になっていることを実感する。

そして、定刻。「皆さん、宜しいですか。

多 忙な中村先生のバトンを受けて、今号より編集部伊藤が音楽体操取材レポートさせていただきます。快晴の昨年12月18日、神奈川県藤沢市にある有料老人ホーム サンライズヴィラ藤沢湘南台を訪ねました。(レポート 編集部・伊藤幹雄)



目線を合わせて、ご挨拶

では、始めたいと思います。こんにちは」と中村先生が開始の挨拶をし、音楽体操が始まる。最初の曲は『雪山讃歌』

「今日は暖かいですね。12月で雪がないのに、『雪山讃歌』で始めます」と先生が言うと、笑いが起こり、会場が和らぐ。

雪山讃歌で行う体操は、「指折り体操」。歌に合わせて、1、2、3、4、5と親指、人差し指、中指と順に指を折って数える。小指まで折って5を数えると、次6からは小指から開いていく。これを、「雪よ岩よ われ等が宿り 俺たちや街には住めないから」と歌に合わせて行う。参加者のほとん

ッサという分子標的薬がその人には劇的に効いたのです。それは特別良く効いた例外だったのかもしれないが、医学の進歩とともに余命は益々分かりにくくなります。

だから家族には心の覚悟をしてもらう目的である程度の幅を持たせて告げなければいけません。本人には明確な言いかたはしません。二つめは「余命〇ヶ月」と言うことではなく「呪い」をかけてしまうような気がするからです。それを前向きに捉える人もいればそうでない人もいます。在宅医療を支える医療なので、医師は患者の苦痛に寄り添う同伴者です。だから「告知」という言葉の響きにさえ「上から目線」と感じるの

で、「対話」とか「言葉のキャッチボール」という捉え方をします。

「というわけで、私は「嘘」をつきまくっています。そしてそのまま亡くなれば「永遠の嘘」となるわけです。だから講演会では吉田拓郎と中島みゆきのデュエット曲「永遠の嘘をついてくれ」という曲を替え歌にして歌いました。しかし歌っているうちに亡くなった人、永遠の嘘をついた人の顔がフラッシュバックしてきて涙が止まらなく

なりました。どこか懺悔の気持ちもありました。会場の人も一緒に泣いてくれたので、少しは理解して頂いたのかもしれない。

認知症の人につく「嘘」

デイサービスに行くのを嫌がる認知症の人に「スナックに行こう」と言う場合があります。あるいはショートステイのことを「温泉旅行」と言ったり誘う場合も。それで気分良く行ってくれるのであれば、これは在宅療養に必要な嘘だと思えます。決して認知症の人を馬鹿にしているつもりは無く、本人が理解しやすい言葉に翻訳しているつもりでいろんな言葉を使っているだけです。

同様な理由で、認知症の人のご家族が急病になったり最悪の場合、亡くなられた場合、状況に応じた嘘をつくことが日常になつていきます。そんな私は嘘ツキの悪人でしょうか。そう言われても私は全く構いません。本人のショックを和らげたり、無用なストレスを回避するためには仕方がないことだと思えます。もちろん本人の受け止める力にもよります。案外、バッドニュースを受け入れることができる人も多いので一

概には言えませんが、あくまで平気で嘘をつく場合もいくらでもある、という話です。ですから貴方の場合も最初から「言う」「言わない」の二者択一ではなく、祖母の様子を見ながら少しずつ話してみる、いいのではと思えます。もちろん言わなくてもいい、という趣旨で回答しました。ただし以上はあくまで私の個人的な考えにすぎないので参考程度に留めてください。

NEW
著書ご紹介

痛くない死に方



著者：長尾 和宏
出版社：ブックマン社
価格：1000円＋税

痛くない死に方

ある葬儀屋さんがこんなふうに言っていました。「自宅での臨終では、苦痛に歪んだ顔をして旅立たれる人を私は見たことがありません。でも、「死」というものは必ず「痛み」とセットであると考えている人が多いのです。平穏死という視点から「痛くない死に方」をできるだけ分かりやすくまとめました。